TONE
広報とね　2026年11月号（No.752）　発行：利根町役場　編集：総務課 秘書広聴係／まち未来創造課 シティプロモーション係
〒300-1696　茨城県北相馬郡利根町布川841-1　TEL：0297-68-2211（代）　HP：www.town.tone.ibaraki.jp

とねまちプレイバック

昭和40年
3月発行
広報とね



利根町広報

米の収入くらいは野菜でとろう

農業経営も大きく変わってまいりました。米麦の収入だけでは食べて行く事が出来なくなり出稼ぎ、畜産、野菜等それぞれの特技を生かす経営になってきました。

一方、都市は毎年拡大され、利根町も近郊地帯に大きく近づきました。

近郊地帯の農業は、高度な菜園芸の振興が必要です。野菜の導入について考えなければならない事は

一、生のまま食べることが出来る野菜

二、栄養が高く料理が簡易な野菜

三、見た目がきれいで、うまさを感じさせる野菜

等が今後消費が伸びるといわれています。

しかも、これらの野菜を高く有利に売るためには

①大量の継続出荷
②品質の統一
③荷姿包装の統一
④多量の量目
⑤強力な宣伝

この5つの条件が必要です。したがってこれからは、個人出荷や部落出荷では有利な販売が出来ないので、この町に住む農家が統一して品種をそろえ、作付を増し、おたがいに約束を守って大産地を作り上げる事が必要です。竜ケ崎地区の21農協が力を合せて近郊農業に対処する園芸団地造成を推進しております。

利根町の今年の作付目標は

キャベツ	17ヘクタール
ネギ	15ヘクタール
レタス	5ヘクタール
パセリ	5ヘクタール
ニラ	4ヘクタール

キャベツについては、今年から最低価格の保証制度に加入しますので安心して作れます。また、ネギは市場が最も喜んでいる作目であり、レタスは陸田やキャベツ、ネギの後作に良い有利な作物です。パセリ、ニラはどこの農家でも3アール位は作っていただきます。

こうして出来た野菜は、共同で市場に運び野菜の収入を米麦の収入と同じ位にまで増加させる計画で進めておりますので全農家の協力をお願い申し上げます。

竜ケ崎地区営農団地造成を機会にみなさまの協力で利根町を菜園芸の振興に努力してください。

作付面積の申し込みはただいま農協で受けつけております。

（利根農協提供）

写真はキャベツの共同出荷風景。大房出荷組合にて1月24日撮影。（広報係）

とねまちプレイバック

昭和40年3月号の「広報とね」には、当時の利根町で行われていたキャベツの共同出荷の様子が紹介されています。写真には、収穫したたくさんのキャベツを前に、出荷作業に取り組む人々の姿が写っています。

記事からは、米だけに頼らず、キャベツなどの野菜を生産して、農家の収入を増やそうとする取り組みが進められていたことが分かります。収穫したキャベツを共同で出荷することで、農家同士が力を合わせ、農業の収入を少しでも増やそうとしていました。

今から60年以上前の広報に記された「米の収入くらいは野菜でとろう」という言葉。近年、米の価格が大きく変動し、米を取り巻く環境が改めて注目されている今、当時の農家が収入を安定させるために知恵を絞っていたことには、時代を超えて考えさせられるものがあります。

現在も、利根町では米をはじめ、野菜や果樹などさまざまな農産物が生産されています。農業の形やそれを取り巻く環境は変わっても、地域の農家が工夫を重ね、より良い農業を目指してきた姿は、今につながっています。

人口と世帯（令和8年10月1日現在）

総人口	15,193人	（－56）
男　性	7,558人	（－34）
女　性	7,635人	（－22）
世帯数	7,874世帯	（－36）

（）内は前月比

【１１月の納税等】　※納期限および口座振替日は１１月３０日です。
国民健康保険税：５期
後期高齢者医療保険料：５期

UD FONT